

Message

長尾 充  
産婦人科部長兼周産期センター所長にきく  
“NICUも活躍 安全な分娩が完結”



Profile

昭和60年慈恵医科大卒。平成11年7月から町田市民病院勤務。平成17年10月1日から産婦人科部長。

※NICU—新生児特定集中治療室。早産児や低出生体重児、または何らかの疾患のある新生児を集中的に管理・治療する部門のこと。

—産婦人科医は新しい生命の誕生に立ち会う仕事です。生き甲斐を感じますか。  
長尾 いつも意識しているわけではないかもしれませんが、当院で生まれた赤ちゃんが思春期になって来院、そのお母さんが筋腫や更年期で来院、また年をとって受診に訪れる、といった姿に接するとき、女性の生涯のライフパートナーとしての存在価値を感じますね。

—うれしいことですね。当院の強味はなんですか。  
長尾 産婦人科医師8人の人間関係はきわめてよいと自負しています。新生児科の医師3人も全員九州の聖マリア病院出身で、医療レベルが高い。看護師51人(助産師24人を含む)も常に勉強会を開いて専門医療レベルの向上をはかっています。1人1人、医療に対して高い情熱があり、チームワークがよいのが誇りですね。

—子宮頸がんが問題になっていますが。  
長尾 毎年8000人が罹患し、約2400人がそのために亡くなっています。とくに20代から30代が増えており、助かっても出産の可能性が奪われる場合があります。ただHPVというウイルスが原因と分かり、ワクチン注射で予防できる唯一のガンです。10代で接種を、20代以降は検

診を勧めます。  
—忙しい合間の息抜きは？  
長尾 3年前から家内と週末乗馬に通っています。ダイエットのつもりだったのですが面白くなって続けています。



四季折々  
—しきおりおり—  
▼この夏、東京新宿区の病院に入院していた。40年来のかかりつけ医の紹介であった。即刻入院、病院も部屋も選ぶ余裕はなかった。主治医の先生は「年令も年令だし、病状から肺がんを疑った」と件落着したあと話していた▼確かに当初は検査検査で、容疑濃厚のスタートだった。日がたつにつれ「シロ」に変わっていく。その間、先生方はいつしよになって心配し、喜んでくれた。看護師さんも同様。「患者に寄り添う」とはこういうことか、と思った▼チームに名古屋からきたばかりの研修医の先生がいたが、夕方になると部屋にきて、データを説明してくれた。先生は医師のやり甲斐の中に「個々の病気の原因を突きとめること」をあげていたが、自分も少々は役に立ったかもしれない▼おかげで全治し、退院した。二時期、がんを覚悟し、「どう生きるか」を一人病床で考えたことはマイナスではなかった。この経験を深化させたいと思っている (四方)

### 分娩介助料のお知らせ

対象 町田市民病院で出産予定の方。  
平成22年10月1日より分娩介助料を変更します。  
なお、多胎児出産の場合は人数倍に加算されます。



出産時間	料金
時間内(休日を除く) 8:30~17:00	140,000円
時間外(休日を除く) 6:00~8:30	162,000円
17:00~22:00	
深夜(休日を除く) 22:00~翌朝6:00	184,000円
休日(土曜日及び日曜日並びに国民の祝日に関する法律に規定する休日並びに1月2日及び3日並びに12月29日から同月31日まで)	184,000円

お問い合わせ 町田市民病院 医事課 TEL722・2230(内線)7131

### 「一日看護体験」開催

東京都では中高生の看護への理解を促し、将来の職業選択の一助となるように「一日看護体験」事業を実施しています。

当日においても7月22日から3日間、25名の高校生が参加して開催されました。

参加者は血圧測定や足浴など患者さまのケアを通して、看護への理解を深めたようでした。

指導した私達も、きらきらした表情に純粋な看護への姿勢を感じ、強い感銘を受けました。

私たちの仲間が一人でも増えることを期待し、今後も喜んで応援していきたいと思っています。

(看護部 研修担当)

## 『変わっていく病院薬剤師業務』

町田市民病院薬剤科は、薬剤師25名、事務系スタッフ3名により調剤業務、注射剤無菌調製業務、院内製剤業務、薬剤管理指導業務、医薬品情報管理業務、医薬品管理業務など院内の薬に係わる各種業務を担っています。また、医薬品管理業務の一部は、委託職員の業務支援を受け院内の各部署への医薬品搬送などを行っています。

外来処方箋の院外処方箋への移行が行われる前は、業務の大半が外来調剤で、その他の院内の薬剤関係業務への関わりは、不十分なものでした。しかし、2008年に外来処方箋を院外とすることに、業務は一変していきましました。今までの外来調剤に費やしていた人員の2/3を院内の各病棟での薬剤管理指導と注射剤調剤、注射薬調製に配置し、薬物療法の充実を図ることとなりました。なぜ、このような業務の改革を今、行っているかなければならないか、また、そのために力を注ぎ展開してきた業務の必要性についてお話しします。



上野薬剤科長



近年の医薬の進歩により病気への治療効果が確実に発揮される薬が次々に開発され、当院にも導入されました。例えば、今までの薬では効果が得られず、余命6カ月とされていた、進行・再発の大腸がんの患者さまも2年以上延命することができる薬物療法。難治性のリウマチで従来痛みを止めることも困難であった患者さまのリウマチの進行を止めて日常生活を自由にすることができるようになりました。以前にはとても考えられない治療効果の薬剤が毎月のように数多く開発されています。

しかし、その効果の反面、使用方法により重大な障害を招いたり、患者さまの体質により重篤な副作用が発症したりするため、従来の薬より厳格な取り扱いが必要になってきています。また、薬剤の調製方法も複雑なものが数多くみられ、化学的な薬の知識を持った薬剤師が必要になってきています。これらの、新薬による薬物療法を支える業務が薬剤管理指導業務です。薬剤管理指導は、患者さまには馴染みの薄い言葉ですが、当院では現在、調剤業務と並ぶ主要な業務となっています。



▲病棟へも伺います

薬剤師が患者さまのベッドサイドに伺い、副作用・アレルギー歴、他病院での薬服用歴等の患者さま情報を収集し、適正な薬物治療をサポートします。また、お薬の効果、副作用、服用方法あるいは生活面での注意などを説明させていただきま

このため、もし副作用が起きたとしても早期に発見、対処することができるようになり、効果が強く副作用が出る可能性のあるお薬も安心して使用することが可能になりました。

次に注射剤無菌調製業務においては、治療効果が強く毒性も強い抗癌剤の治療に当たり、お薬の治療計画書を薬剤師が管理し適切な時間に適正な用量の薬を調製することにより、薬物治療における患者さまの安全と薬の有効性を確保することが可能となります。

このような、新しい業務の展開により、院内の他職種間のチームで情報を共有し、患者さまの利益に結び付くより有効な薬物療法を進める部署が、町田市民病院薬剤科です。

是非、院内で活躍する薬剤師に注目してみてください。



## ～外来化学療法治療室より～

# えて 教 看護師さん

Vol.7



看護師が活動しているのは病棟だけではありません。この号からは、病棟以外の部署で働く看護師を紹介していきます。今回は、南棟2階にある「外来化学療法治療室」です。

### 専用の治療室があります！

抗がん剤治療というと、みなさんはどのようなイメージを持たれるでしょうか。「苦しい」とか「辛い」というイメージを持たれている方が多いのではないのでしょうか。しかし、近年では、抗がん剤の開発とともに、吐き気止めなど、様々な副作用に対応できる薬剤が増えており、抗がん剤治療は、これまでのように「辛くて苦しい治療」から「今まで通り日常生活を過ごしながら受ける治療」へと変化しています。

こうした流れを受け、当院では2008年に抗がん剤などの特殊な薬剤専用の「外来化学療法治療室」を設けました。現在は、がん化学療法看護認定看護師を含め常時2～3名の看護師が、患者さまの状態に変化がないか観察しながら、点滴をはじめとしたがん治療の看護にあたっています。治療のスケジュールや治療時間は人によって異なりますが、多い方では週に1回、長い場合は6時間程度かかります。このため、治療室にはベッドやリクライニングチェア、テレビ等を設置し、できるだけリラックスして治療が受けられるような環境を整えています。

外来での抗がん剤治療の利点は、なんとと言っても、仕事や家事など、



通常の社会生活を続けながら治療が受けられる点です。しかし、日常生活上の「本当に何でも食べられないの?」とか「何に気を付けた方がいいの?」などの不安や疑問を持つ患者さまも多くいらっしゃいます。その場合は、遠慮なく看護師に質問していただいています。患者さまのそうした不安を出るだけ少なくし、安心して安全な治療を受けられるような環境づくりをすることもわたしたち看護師の大切な仕事です！

### 多職種で支援しています！

さて、ここまで看護師の仕事を中心に紹介してきましたが、「外

来化学療法治療室」では、様々な職種のスタッフがそれぞれ異なる役割を担いながら、患者さまを支えています。たとえば、医師の主な役割は、患者さまと相談しながら治療計画を立て、患者さまの状態を見極めながら適切な治療を進めていくことにあります。薬剤師の主な役割は、抗がん剤の内容のチェックや薬剤の調製、治療スケジュールの管理・確認にあります。必要な場合は、薬剤指導や薬に関する相談を受けます。その他、患者さまと直接関わる機会は少ないですが、臨床検査技師や栄養士も支援しています。このように、町田市民病院の「外来化学療法治療室」では、様々な職種のスタッフが協力し合いながら、「安心・安全」な抗がん剤治療に努めています。



### 多職種で支援します！

いかがでしたか? 抗がん剤治療の「今」がわかっていただけたでしょうか? 今後も市民のみならず、まの健康を守り、安全で良質な看護サービスを提供していきます。

### 「患者サポートセンター」開設について

町田市民病院を安心してご利用いただくため、患者さまのご質問やご相談にお応えする窓口として、「患者サポートセンター」を6月から開設しました。

- 「よくある」質問・相談
- 症状ごとの診療科のご案内
  - ご自宅近くの医院等のご紹介
  - 医療や介護についてのご相談
  - 病院へのご意見やご要望のお問い合わせ

プライバシーに配慮しながらお話を伺います。病院内でお困りなことがありましたら、ご遠慮なくお声をおかけください。患者さまに安心して受診していただけるようサポートさせていただきます。

どうぞお気軽にお立ち寄りください。

「患者サポートセンター」窓口  
場所 南棟1階 南口エントランス正面  
(入院受付ならば)  
開設時間 平日 8時30分～17時





独立行政法人 医薬品医療機器総合機構理事長

近藤 達也 さん

## vol.7 Essay 「理念」の作成の意義

自らを磨き進化させようとしているかということ、これらを念頭に「理念」作成を職員全員に呼びかけました。当時450名弱であった職員から、単独の、あるいはチームから40件以上の様々な工夫をした提案が届けました。それらを整理統合して、何度も読み返し、約半年がかりで完成させました。

「理念」を作って良かったことは、まず、この作業自体が職員の意識の一体化に大変役立ちました。そして業務の重要さや社会的な責任の自覚、つまりモラルの向上に大いに効果を挙げることが出来ました。また、社会に向って、PMDAの業務を、どの様な観点で、どの様な方法で、どのような責任感で遂行していくかを宣言したことで、折からこの組織の動向が注目されていたところでもあったので、国内はもとより海外の諸機関からも大きな反響を呼びました。そして薬害や副作用被害で悩まれている患者さん、製薬企業、医療関係者、政治家、外国の通商関係の方々などから多くの賞賛を頂き、PMDAの社会的な評価が高まったことを実感しました。それから以後、PMDAの業務については、国民の皆さんの支援をベースにして、日々の改革が更に押し進められていると感じています。

社会においては組織、個人ともに、「理念」が必要だと思います。換言すれば、生き様の哲学でしょうか。これをしっかりと成し遂げていくことで、社会から信用を頂き、活動が出来るものと考えております。

近藤達也(こんどう たつや)

東京大学医学部卒、マックス・プランク研究所(西ドイツ)に留学。国立国際医療センターに勤務。脳神経外科部長、病院長を経て、平成20年4月から機構理事長。68歳。蒸気機関車をこよなく愛している。

## 駐車場がオープンします！

患者さまや周辺住民の皆さまには、振動や騒音など、大変ご迷惑をおかけしました。今月、病院敷地内に、エレベーター付き2階建て駐車場がオープンします。なお、これに伴い、これまでの駐車場はご利用いただけなくなります。ご了承ください。今後は、屋根つき通路を通ることで、雨天でも快適かつ安全に、ご来院いただけます。なお、料金は下記のとおりです。

### 料金

30分まで 無料  
30分を超えて  
4時間まで 100円  
4時間を越えるもの  
1時間ごと 100円



## 旭町二丁目町内会有志に 国土交通大臣より感謝状！



当院の地元、旭町二丁目町内会(木藤一郎会長)の「リフレッシュクラブ」が、8月4日に「道路功労者」として国土交通大臣より表彰されました。有志による朝夕のゴミ拾い、公園の清掃、当院を含めた花壇づくりなど、ボランティア性、協働性が評価されての受賞です。おめでとうございます。

## 編集後記

猛暑でした。熱中症の患者さんも多く、全国では救急搬送されたケースが5万人以上とか。日本は亜熱帯の国になったという説もありますが、激しい寒暖にはくれぐれもお気をつけ下さい。